

でなくなってしまうと考えられていたが、詳しい計算によるとそうではないことを述べた。彼の計算によれば、粒子はうず巻運動で太陽に近づき、ある距離までくると蒸発がおこって粒子が小さくなるが完全にはなくならないで、今度は逆にうず巻運動をしながら太陽から遠ざかって行くというのである。

第3日のプログラムが終了後、この日の夜に第4日の午後のプログラムを繰り上げて行うことになった。これは、4日間のシンポジウムで、プログラムがあまりにもギッシリとつまりすぎていて息つくひまもなく、せめて4日目の午後ぐらいノンビリさせてほしいと云う声が出たためらしい。

第4日のテーマは「惑星間物質の天文学的起源と進化」であった。したがって、第3日の夜はこのテーマで行われたが、ここではペルコム社のドナニヤコーネル大学のハーウィットがそれぞれ、小惑星同志の衝突によって惑星間粒子ができることを論じた。これは、惑星間粒子が太陽に近づき蒸発したり、太陽の輻射圧で太陽系外に吹きとばされてなくなるのを補給するためには、彗星がまき散らして行く粒子だけでは足りないということからこのような考えを提出したのであるが、彼等の計算にも当然のことながら多くの仮定が入っているの、さらにいろいろな関連分野の観測を積み上げて、これらの条件を確かめて行くことが必要である。またワシントン大学のホッジは、大昔に地球上に降って来て、氷の中にとじ込められている直径1ミクロン程度の惑星間粒子を、グリーンランドや南極の古い氷の中から採集し、化学分析して組成を調べたところ、鉄が最も多く、またその組成は地殻の組成とは異っていることを示したが、まだこの資料は少いので、もっと多く集める必要があることを強調した。

この日は全くの強行軍で、朝の9時から夜10時すぎまでぶっ続けに英語の講演を聞かされて筆者などは心身共に疲れてしまい、ホテルに帰って、古畑氏と近くのドラッグストアで買った日本のビールで慰労の乾杯をした後、早速ベッドにもぐり込んだ。

そのようなわけで、第4日は午前の招待講演だけであったが、その中でカナダのミルマンは、隕石孔からはじまって隕石、流星、ロケット等での測定、黄道光の観測等から得られる種々の大きさの惑星間粒子に関するいろ

いろな情報について解説したが、最後に1966年のシシ座流星群は例年とは非常に異り、出現時間は約1時間位でそのピークは5分間位の短いものであったと述べた。

この日の午後は参加者一同すっかり解放されて、車を借りて見物に出かけたり、ワイキキの海岸で泳いだり思い思いにハワイの休日を楽しんだ。筆者もこの日についてワイキキで泳いでしまった。というのは、今まで何度かハワイを訪れ、5年前には8カ月間滞在しましたが、まだ一度もハワイの海で泳いだことがないというのが筆者の自慢(?)であったのだが、この日にととう節を屈してしまったのである。泳いでみて、ワイキキというところは名ばかり高いが、実際はつまらない海水浴場であることを痛感した。海浜は色とりどりのビキニ姿で美しいが、海に入ってみると遠浅なのは良いとしても、水面下の到る所にサンゴ礁が突出していて、うっかり泳いでいるとそれを蹴とばしてしまうのである。事実、筆者もそのためにヒザをすりむいてしまった。やはりワイキキは眺めを楽しむ海岸である。

翌2月3日は、このシンポジウムのプログラムの一部としてマウイ島のハレアカラ観測所の見学が行われた。一応希望者のみということであったが、ほとんど全員が参加した。ホノルルから飛行機をチャーターしてマウイ島に飛んだが、偶然にもこの飛行機は、先頃日本からハワイアンエアラインズ社に輸出したYS11であった。マウイの空港からは、貸切りバスでハレアカラの頂上へ向ったが、途中ハレアカラの大噴火口跡のフチで休憩したとき、その荒涼たる景色を見てホイップルが「月の景色と同じだ」などと云っていた。

頂上の観測所群については、スタイガー氏が紹介しているので、ここでは省略するが、5年前に筆者が滞在していた頃に比べて大変な変貌ぶり、ある紹介パンフレットに「ハレアカラの頂上に一大科学都市が出現した」と書いてあったが、まさにそのような感じである。

ほとんどの見学者は、この日の午後から夕方にかけて山を下りて帰ったが、筆者は観測につき合っただけで旧知の連中とダベリながら一夜を明かし、夕方の黄道光、夜中の対日照、夜明の黄道光をノンビリと眺めて楽しんだ。

特に、美しい日没を見た後の西空に、水星、金星、土星が輝き、次第に空が暗くなるにつれてそこに雄大な黄道光が出現した景観は、実に印象的であった。

学会だより

◇大塚奨学金希望者募集 昭和42年度の大塚奨学金を希望される方は9月10日までに下記事項記載の上“三鷹市大沢東京天文台内日本天文学会理事長”宛お申込み下さい。

(1) 氏名、生年月日、年齢、性別、(2) 現住所、(3) 学歴、(4) 職業、(5) 研究題目、(6) 内地留学をしたいと思う研究機関、(7) 内地留学を希望する期間と日程、(8) 奨学金として希望額、(9) これまでの主な研究経歴、

なお詳細は会員名簿付録の大塚奨学金内規を参照して下さい。

◇欧文報告編集係よりのお願い 欧文報告に投稿される方の論文は、2名のレフェリーに審査をお願いしております。レフェリーには欧文報告の内容を向上させるための建設的御意見を求めて協力していただいております。今後投稿される方は、なるべく元の原稿の他にコピー2部をつけてお送り下さい。